

今後の医師確保対策（案）について

和歌山県福祉保健部健康局医務課

地域枠医師（自治医関係）の派遣対象の診療科拡大について

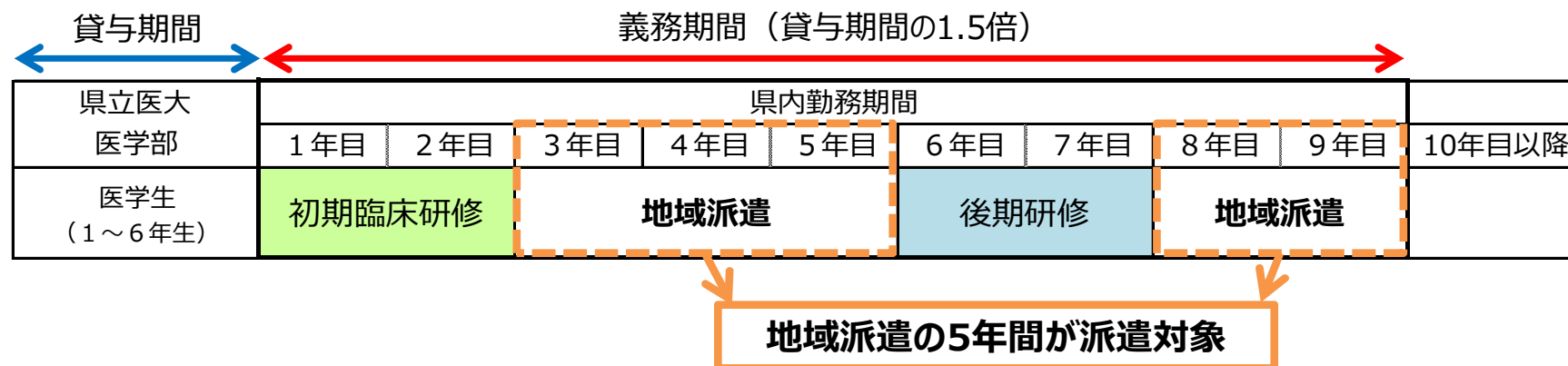
自治医科大学卒業医師の派遣時における診療科について

- ・ 後期研修期間は、2年間とし、専門研修プログラム登録の際、診療科選択の制限はなし
- ・ 地域派遣期間は、5年間以上とし、内科での派遣とする（週1日の研修日あり）

**産婦人科医師不足の危機的な状況を踏まえ、派遣対象の診療科を拡大
（産婦人科医師の充足が見込めるまで当分の間）**

募集枠	定員	派遣対象の診療科
和歌山県立医科大学地域医療枠	10名	内科 ※例外的に、産科・精神科も認める
近畿大学医学部和歌山県枠 [へき地医療コース]	10名 (R2から2名)	
自治医科大学	2～3名	内科 ※例外的に、産科も認める

【地域枠医師等の義務期間の勤務イメージ】



地域枠医師の県内定着促進策について（報告）

- 令和4年度末で、県が和歌山県立医科大学に設置した募集枠（県民医療枠、地域医療枠）卒業医師1期生の方々が、県内公的医療機関での勤務義務の年限（卒業後9年間）が修了することになります。
- これまで地域医療の確保と向上に尽力いただいた上記医師及び自治医科大学卒業医師の方々の功績をたたえるため、感謝状を贈呈しました。

地域医療従事者（地域枠医師）知事感謝状 贈呈式

- 1 日時 令和5年3月18日（土）
午後3時00分～
- 2 場所 ホテルアバローム紀の国 2階「鳳凰の間」
- 3 式次第 開式
感謝状贈呈
主催者挨拶
来賓祝辞
来賓紹介
受賞者のことば（体験発表）
閉式
記念撮影

受賞者（出席者）

- ①和歌山県立医科大学 県民医療枠卒業医師【2名】 <1期生の方>
- ②和歌山県立医科大学 地域医療枠卒業医師【3名】 <1期生の方>
- ③自治医科大学 和歌山県枠卒業医師【1名】

※県内での勤務義務の年限が修了する医師は19名（①13名、②3名、③3名）
勤務等の都合により当日出席者は、上記の6名。

※19名のうち12名（約6割）が、引き続き、県内で勤務予定。

※贈呈式には、学生及び義務年限中の医師 約30名が出席。



地域枠医師の県内定着促進策について

現状・課題

- 地域枠医師の派遣により、県内公的病院での医師数は増加しているが、来年度から義務年限明けとなる医師の県内定着を図ることが必要。
- 一方、地域の公的病院では、指導医が不足しており、地域で勤務する地域枠医師に対するキャリア形成に向けた支援の強化が必要。医療の質の向上に加え、派遣先(地域)で安心した勤務ができていれば、将来の定着率向上にもつながる。

(1)「地域医療支援ドクター登録制度」の創設

新規

①メンター制度の導入

いつでも
も支援

登録医師（義務明け）による地域枠現役医師へのキャリアカウンセリング

県の支援／学会への参加、活動経費などを支援

上限：10万円（1年間）

対象：サブスペシャリティなど専門性を高める自己研鑽経費

- ・メンター（先輩医師）
義務年限明けの
地域枠医師から募集
- ・メンティー（後輩医師）
義務年限内の
地域枠医師から募集

②登録医師を地域へ派遣

直接
支援

登録医師（義務明け）を新宮など指導医不足の公的病院への派遣促進

県の支援／①に加え、1年以内の国内外の留学費用を支援

上限：300万円（1年間）

対象：2年間の県指定病院勤務で最大1年間の留学経費

(2)「地域医療支援コーディネーター」の設置

地域で勤務する地域枠医師の診療を支援（遠隔医療支援システムを活用）

技術
支援

※地域医療支援センターに助教枠を追加

※1人診療所など派遣経験を活かしたサポート、より専門であれば医大各医局へつなぐ仕組み